

いのちの授業【国語科】学習指導案

指導者 Y

1. 本時の指導

(1) 題材 「償い」 作詞・作曲：さだまさし

(2) 目標 表現形式や内容から、加害者の誠実な姿を通し、人間の存在について深く考える。(国語科)
「償う」という行為を通して、誰もが加害者になりうるという事実から、人として生きていく苦しさ、人を許すことの貴さを感じ、自らの生き方について考える。(いのちの授業)

(3) 指導過程

	学習活動	主な発問(○)と指示()	指導上の留意点(・)と評価()
導入	県内で起こった列車事故に対するＪＲ東日本の対応を知る。	○新聞記事を読み、事故後のＪＲの対応を挙げましょう。 ○ＪＲ東日本社長は、何をしましたか。	・黒板に拡大記事を、生徒一人ひとりには、学習プリント１を配る。 ・社長が被害者家族に謝罪する必要性を考えさせたい。
展開	さだまさしの「償い」を読み、主人公の行為(事故～謝罪～償い～赦免)をとらえ、歌のタイトルを考える。	詞を読みましょう。 ○登場人物の行動をまとめてみましょう。 ○この曲のタイトルが何かを考えましょう。	・学習プリント２に歌詞を載せ、行動をまとめさせる。 ・タイトルから「償う」という行為の苦しさに注目させる。
まとめ	次の２点について、自分の考えを文章で表現する。 「ゆうちゃん」は、なぜ仕送りをし続けることができたのか。 「被害者の奥さん」はなぜ、「ゆうちゃん」を許すことができたのか。	○加害者である「ゆうちゃん」、被害者の「奥さん」について、その行為の意味をまとめてみましょう。	それぞれの行為をとらえ、人として生きることの苦しさを表現することができたか。
いのちの授業のまとめ	さだまさしが歌う「償い」を聞く。 「償い」という行為について、これまでの生活を振り返り、感想を書く。	この歌詞は、さだまさしさんが歌う「償い」という曲です。聞いてみましょう。 ○今日、この授業で考えた「償い」という行為を今までの生活を振り返り、感想を書きましょう。	・ＣＤを準備する。 ・生きていく中で、これから経験するであろうさまざまな出来事に思いを巡らせ、卒業後の人生に役立たせたい。

(4) 評価 登場人物の行為をとらえ、人として生きることの苦しさを表現することができたか。
卒業を控え、さまざまな人や出来事に対して、感謝の心を持ち、やさしく接することができるか。